

2026 年 5 月 25 日

臨地実習の評価に関する知見を有する専門家

文部科学省委託事業「学士課程における看護学実習の充実のための調査研究」

事業2責任者 JANPU 委員 西村礼子

事業運営責任者 JANPU 常任理事 鎌倉やよい

一般社団法人日本看護系大学協議会(JANPU)

### 【学士課程における看護学実習の充実のための調査研究】

「看護学教育モデル・コア・カリキュラムの資質・能力の到達度に基づく評価  
-OSCE でのコンピテンシー評価項目と評価課題、参加型臨地実習でのコンピテンシー  
評価項目と実習領域の特定-」参加へのご依頼(臨地実習)

平素より一般社団法人日本看護系大学協議会(以下、JANPU)の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

JANPU では文部科学省から『大学における医療人養成の在り方に関する調査研究「学士課程における看護学教育の質向上に向けた調査研究」テーマA: 学士課程における看護学実習の充実のための調査研究』を受託し、「事業1: 参加型臨地実習実現に向けた課題の調査とモデルの開発」と「事業2: 資質・能力の到達度に基づく臨地実習前後の CBT・OSCE を活用したコンピテンシー評価」を実施しております。

本調査は、文部科学省委託事業「事業2」の一環として実施する研究(以下「本研究」)です。本研究は、「看護学教育モデル・コア・カリキュラムの資質・能力の到達度に基づく評価-OSCE でのコンピテンシー評価項目と評価課題、参加型臨地実習でのコンピテンシー評価項目と実習領域の特定-」を実施いたします。

つきましては、本調査の趣旨(下記内容)をご理解頂き、調査にご参加をお願い申し上げます。

本事業並びに本調査研究に関するご質問等がございましたら、4 頁の問い合わせ先までご連絡ください。

#### 【本調査研究について】

■対象者: 臨地実習の評価に関する知見を有する専門家(看護系教員および臨地実習指導者)

■調査期間: 2026 年 5 月 25 日(月)～ 7 月 31 日(金)

■調査方法: デルファイ法(Google フォームを用いた無記名のWEBアンケート方式)

第1ラウンド: 骨子案の評価(量的評価+自由記述)(Google フォーム)

第2ラウンド: 第1ラウンド評価(課題・実習領域特定)、自由記述を踏まえた修正案の再評価  
(Zoom インタビューおよび Google フォーム)

第3ラウンド: 最終確認(Zoom インタビュー)

#### 1. 調査の目的および意義

JANPU は、令和 7 年度文部科学省の委託事業「事業2」において、看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 6 年度改訂版)に示された資質・能力の到達度に基づくコンピテンシー評価の一環として、OSCE の全国調査を実施し、「OSCE の実施状況、OSCE ガイドブック作成に必要なと考える内容等」を収集しました。また、調査にて、看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 6 年度改訂版)に基づく資質・能力から下記を明らかにしました。

- 参加型臨地実習前に、看護学士課程で、全国共通 OSCE で最低限保証する評価項目
- 参加型臨地実習時点で、臨地実習で実践の機会が最低限実践の機会が保証される評価項目

#### <用語の定義>

●参加型臨地実習の定義: 参加型臨地実習とは、看護学生が医療チームの一員として、臨地実習指導者の指導の下、「違法性阻却がなされた看護行為(療養上の世話及び診療の補助としての医行為)」注)等を提供する実習であり、一定の役割と責任を担いながら、知識、スキル、態度・価値観を統合し、思考力・判断力・表現力を用いて可視化されるパフォーマンスを学修する実習をいう。

注)違法性が阻却される条件として、①患者・家族の同意のもとに実施されること、②看護教育としての正当な目的を有するものであること、③相応な手段、方法をもって行われること、が示された。ただし、④法益侵害性が当該目的から見て相対的に小さいこと、⑤当該目的から見て、その

ような行為の必要性が高いことが認められること、この2条件が満たされる必要があるが、②③の条件に含まれると示された。

●全国共通 OSCE の定義:参加型臨地実習を実現するために、全国の看護学士課程において標準化された手順と評価基準を用い、臨地実習前に客観的に看護実践能力を評価する試験

●最低限実践の機会が保証される必要がある:看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和6年度改訂版)で示された「指導体制と委託の程度」が保証された状態で、臨地実習において学生が必ず実践し、大学と実習施設によりが学生の資質・能力を評価すべき項目である。

本研究は、デルファイ法にて、上記の全国調査で得られた評価項目に対して、「OSCE のコンピテンシー評価項目の妥当性と項目で測定する評価課題」と「参加型臨地実習でのコンピテンシー評価項目の妥当性と実習領域の特定」を調査し、妥当性と実現可能性を明らかにすることを目的としています。

本研究により、看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和6年度改訂版)の資質・能力に基づく到達度に対応した OSCE や参加型臨地実習の設計と運用の支援を可能とする資料となります。また、各大学における OSCE や参加型臨地実習による看護学教育の質保証、OSCE ガイドブックや参加型臨地実習ガイドラインの質保証、学生のコンピテンシー評価、学内教育と臨地実習の連携に資すると考えています。

本調査では調査項目が多くなっていますが、ご理解・ご参加のほど、お願いいたします。

また、昨年に引き続き、事業1として参加型臨地実習実現に向けた課題の調査を予定しております。こちらにつきましても、ご参加をお願いいたします。

## 2.目的

事業2:文部科学省令和8年度委託事業「学士課程における看護学実習の充実のための調査研究」の一環として実施する調査として、デルファイ法にて、「OSCE のコンピテンシー評価項目の妥当性と項目で測定する評価課題」と「参加型臨地実習でのコンピテンシー評価項目の妥当性と実習領域の特定」を調査し、妥当性と実現可能性を明らかにする。

## 3.対象者・調査期間

対象者 :臨地実習の評価に関する知見を有する専門家(看護系教員および臨地実習指導者)

《対象者の条件》

- 1) 過去10年間に臨地実習評価に関する原著論文または解説論文について、国内のデータを用いて報告している看護系教員および臨地実習指導者。
- 2) 条件1)を満たすものが推薦する臨地実習評価に関する専門的知見を有した看護系教員および臨地実習指導者。

調査期間:2026年5月25日(金)～7月31日(金)

※インターネット接続の不具合等によりご入力が困難な場合は、JANPU事務局までご連絡ください。

## 4.調査内容等

調査方法:デルファイ法

- 第1ラウンド:骨子案の評価(量的評価+自由記述):Google フォーム
- 第2ラウンド:第1ラウンドにおける各項目の評価(評価課題や実習領域の特定など)、自由記述を踏まえた修正案提示後の再評価:Zoom インタビュー
- 第3ラウンド(必要時):Zoom インタビュー(最終確認)

各ラウンド終了後、各項目の合意率、平均値・標準偏差および代表的な自由記述の要約を集約したフィードバックを作成し、次ラウンドで提示します。なお、第3ラウンドは、第2ラウンド終了時点で合意率が基準値(70%)に達しない項目がある場合に実施し、合意形成を図ります。

調査項目・調査内容:

令和7年度事業2の全国調査から得られた、看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和6年度改訂版)の実習前時点で Shows how が求められる項目において、「実習で資質・能力の評価が必要」と8割以上が回答した160項目の妥当性および実現可能性を7段階尺度および自由記述で評価

回答時間:約30分(回答フォームは自動保存されますので、お時間のあるときに途中から再開可能です)

## 5.謝金

本研究の第3ラウンド(第3ラウンドを実施しない場合は第2ラウンド)までご参加いただいた方には、謝礼として、1万円をお支払いします。

アンケートへの回答、Zoomなどへ接続するための通信費用をご負担いただくことをご了承ください。

## 6.研究実施体制

本研究は、「事業1:参加型臨地実習実現に向けた課題の調査とモデルの開発」と「事業2:資質・能力の到達に基づく臨地実習前後のCBT・OSCEを活用したコンピテンシー評価」の中で実施され、事業2に位置付けられます。

事業1及び事業2の全国調査を円滑に進めるため、本研究で対象者の同意を得た上で得られた調査結果の一部については、両事業の研究責任者間(事業②研究責任者・事業①共同研究者:西村礼子、事業①研究責任者・事業②共同研究者:鎌倉やよい)で共有します。

## 7.個人情報の保護

本研究に関するすべてのデータにおいて組織および個人が特定される情報は扱いません。デルファイ法の特性を踏まえ、個々の対象者の回答は集約データとしてのみ共有し、他の対象者が誰の意見か特定できないよう匿名性を維持します。さらに、研究実施に係る情報を取り扱う際は、研究対象者の個人情報とは無関係の番号を付して加工情報として管理し、研究対象者の秘密保護に十分配慮いたします。インタビュー時の録音データはパスワード付きUSBメモリに保管します。Zoomを用いた場合、レコーディング機能を用いますが、動画はすぐにハードディスクから削除し、音声のみのデータを用います。

Webでの回答は24時間のプログラム監視体制があり、Webサイト上でデータを送受信する際に暗号化を施すセキュリティ技術であるSSL/TLS、不正アクセスを防ぐマルウェア防止プログラムを有しているGoogleフォームを用います。また、研究者が本研究で得られた情報を公表する際は、研究対象施設の情報は含まないようにします。Web上データは、調査期間終了後にダウンロードしてから削除します。ダウンロードしたデータはCSV形式でパスワード付きUSBメモリに保管します。

また、研究者が本研究で得られた情報を公表する際は、研究対象者の情報は含めません。

## 8. 研究に関する情報公開の方法

本研究の成果は、委託事業報告書として取りまとめるとともに、学術雑誌への投稿・学会発表等により公表する予定です。公表に際しては、個人が特定されないよう匿名性とプライバシー保護に最大限配慮いたします。また、研究の透明性および研究対象者の権利を尊重するため、日本看護系大学協議会(JANPU)のホームページ等を通じて研究概要・対象者への説明依頼の周知・閲覧可能なように対応します。

## 9. 研究対象者に生じる負担、予測されるリスクおよび利益

本研究は個人の経験と考えに基づく内容をデータとするため、アンケートの回答により心理的不快感を与えないよう文言には十分配慮いたします。研究対象者のみなさまは、抵抗感や拒否感があり答えたくない質問を拒否する権利、心理的負担が生じる場合にはインタビューを中止する権利があります。インタビューにかかる時間は40分程度を想定しており、皆様の生活の支障にならないように調整し、配慮させていただきます。

また、本研究では臨地実習の認識や課題を調査するにあたり、全国調査をもとに臨地実習の評価基準に必要な内容をインタビュー項目としています。そのため、インタビューを実施すると同時に、研究対象者にとっては臨地実習に必要な内容を把握できるという利益があると考えています。

## 10. 研究参加の自由意思と同意しないことによる不利益

本研究への参加の同意は、研究対象者の自由意思で決めて頂くことができます。たとえ、参加されなくても職務上の不利益となるようなことは一切ございません。

### 11. 研究参加への同意後の随時撤回について

本研究に対し同意した場合であっても、研究対象者の意思で研究を中断することができます。その場合、中断するまでに得た研究対象者に関するデータはすべて破棄するものとし、個人情報も保護を致します。ただし、すべての調査項目についてデータ収集を終えた後は匿名加工情報とするため、同意を撤回することができません。同意を撤回する場合は、すべてのデータ収集を終える前にお申し出ください。

### 12. 研究資金について

この研究は、文部科学省「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究(学士課程における看護学教育の質向上に向けた調査研究)」(テーマ A: 学士課程における看護学実習の充実のための調査研究)の委託事業として実施され、必要な費用はすべて当該事業から支出されます。本研究は、文部科学省の資金により独立して行われ、企業やその他の第三者が本研究の計画・実施・解析・公表に関与することはありません。

### 13. 問い合わせ

本事業・研究に関するご質問等がございましたら下記連絡先までご連絡下さい。

#### 【本事業に関する問い合わせ先】

一般社団法人日本看護系大学協議会 事務局

電話: 03-6206-9451 (連絡対応時間: 9:30-16:30) E-mail: [office@janpu.or.jp](mailto:office@janpu.or.jp)

【本調査研究に関する問い合わせ先】北海道科学大学 保健医療学部看護学科 教授 石川幸司

E-mail: [office@janpu.or.jp](mailto:office@janpu.or.jp)

本調査は北海道科学大学 研究倫理審査委員会にて、多機関共同研究として承認【承認番号: 第 815 号】を得て実施しております。

#### 【事業 2 の実施体制】

事業運営責任者: 鎌倉やよい (日本看護系大学協議会・常任理事)

事業 2 責任者: 西村礼子 (看護実践能力評価基準検討委員会副委員長・看護学教育質向上委員会委員)

事業 2 副責任者: 野島敬祐 (看護実践能力評価基準検討委員会委員・看護学教育質向上委員会委員)

事業 2 メンバー: 石川幸司、佐藤美紀子、前田耕助、神澤尚利 (看護実践能力評価基準検討委員会委員)

落合亮太、川原千香子、松田光信、中村博文 (看護学教育質向上委員会委員)